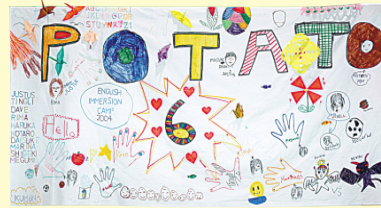


Group Flags



English Immersion Camp 2004 Report

発行日 2004年10月28日
 編集・発行 KUMON English Immersion Camp 事務局
 〒530-0001
 大阪市北区梅田1-2-2 大阪駅前第2ビル9F
 公文教育研究会 グループ広報室内
 TEL. 06-4797-8777
 FAX. 06-4797-8785
 www.immersioncamp.com

編集担当 谷 延尚 (くもん出版)
 デザイン 株式会社スプーン

©公文教育研究会 無断複製・転載・翻訳を禁ず。



R e p o r t

We are One!



Communicating in English —世界を感じた10日間—	2
We are one! 世界はきっと一つになれる—校長からのメッセージ—	5
「最高の夏!」～子どもたちのすばらしい変化～	6
保護者の方々から	8
公文式教室の指導者から	9
キャンプリーダーが感じた10日間	10
平和な世界への第一歩	12
スタッフが見て、感じたイマージョンキャンプ	14
見学者からのメッセージ	14
ニュースランキング	15
成功要因と考察	16
概要	18
Camp Leaders	21
Participants	22

KUMON

English Immersion Camp 事務局



"Welcome to the English Immersion Camp!"
入学式。ようこそ、キャンプへ!



"Nice to meet you"
わくわく、ドキドキ



"Hello! Where are you from?"
自己紹介ゲーム。「どこから来たの?」



"I drew this"
グループ旗作り。「これを描いたよ」



"Let's try!"
学内探検ツアーで集めた文字を使って、単語を作ろう。



"Morning exercise"
朝の体操。今日も元気、元気!



"This is my country"
パソコンでリーダーの国のことを調べます



"Today was very very fun"
今日は、ぼくが日記を発表します!



"Ready... Action!!"
ニュース&カメラクラブ。
アートクラブ取材したら……。



"Who are you?"
アートクラブでペインティング。
あなたは、だれ?



"Move your body"
南太平洋の国ぐにで踊る



"Yummy, Yummy!"
楽しいバーベキュー



"Thank you, Let's eat "
遠足。みんなで昼食を作ったよ



"You can do it!"
どこまで積みあげられるかな?



"Yea~h! Water fight!!"
冷たくて気持ちいい〜っ



"Say cheese"
いつもキャンプリーダーといっしょ



"OK, Panda. OK, Panda!!"
プレゼンテーションの練習。「OK、パンダ。OK、パンダ!!」



"Dance, dance"
キャンプファイヤー。最高に楽しい!!

Communicating in English

世界を感じた10日間



"Hoiya. Hoiya!!"
さよならパーティー。
キャンプリーダーのパフォーマンス



"Higher and higher"
この夜は忘れないよ



"Regnar, the friendly ghost"
「うわあー、なんだ、なんだ??」



Communicating in English

世界を感じた10日間



"We did it!"
卒業式。
堂々としたパフォーマンス



"We are one!"
いよいよお別れ



"Forever friends"
別れるのはさみしいけれど、楽しかったキャンプ!

校長からのメッセージ

We are one! 世界はきっと一つになれる

イングリッシュ・イマージョンキャンプ校長
鳥居健介



私たちKUMONがイングリッシュ・イマージョンキャンプを開催する理由は、＜公文の理念＞と＜English Immersion Campの目的＞に集約されています。

＜公文の理念＞

我々は個々の人間に与えられている可能性を発見しその能力を最大限に伸ばすことにより健全にして有能な人材の育成をはかり地球社会に貢献する

＜English Immersion Campの目的＞

- ◆子どもたちが、世界共通語である英語を使ったコミュニケーションの成功体験を持つこと
- ◆子どもたちが、いろいろな国や地域の人たちとの共同生活を通じて、それぞれの考え方や文化を知り、地球人としてお互いを理解することの大切さを知ること
- ◆子どもたちが、自信を持ち、未知のことにも積極的に挑戦しようとする力、さらに高い目標に向かって努力しようという意欲を高めること

そして今年は、参加した多くの子どもたちがキャンプ終了後の感想文に、「英語を話すことで、世界じゅうの人がお互いのことを知り、友だちになれば、戦争のない平和な世界になるとわかった。そのためにがんばりたい」と書いていました。こんな子どもたちでいっぱいになりたい！ 教育を通じた世界平和への貢献、それが私たちの夢です。

2001年夏にスタートしたイングリッシュ・イマージョンキャンプは、4年目を迎えました。イマージョンとは「どっぷり浸る」という意味です。今年も子どもたちは、世界じゅうから集まったキャンプリーダーたちと10日間、英語での生活に挑戦しました。最初は緊張と不安でいっぱいでしたが、キャンプリーダーたちの大きな愛、自分を丸ごと受け入れてくれるという安心感に包まれ、子どもたちは驚くほど積極的に

英語でのコミュニケーションを楽しむことができました。それだけでなく、失敗を恐れずに挑戦すること、自分の気持ちをみんなの前で表現することを通して、何だってやればできるという自信、自己肯定感を、すべての子どもたちが大きく膨らませました。

そして卒業式。「We Are The World」が流れる中、涙でぐしゃぐしゃになりながら、しっかりと抱き合う60名の子どもたちと15か国27名のキャンプリーダーたち。その姿は、「国や言葉、文化や考え方が違ってても、お互いの違いを認め合い、分かり合うことができる」「We are one! 世界はきっと一つになれる」と確信させるのに十分でした。

このキャンプは、とても小さなキャンプです。しかし、その中で一人ひとりが感じた気持ちこそが、世界平和という大きな夢を実現させるに違いありません。

そのためには、英語が不可欠です。今や英語を公用語とする国の数は60を超え、世界の4分の1から3分の1の人が日常的に英語を使っていると言われています。英語は、それを母国語として使う人たちだけの言語ではなく、母国語の違うものどうしがコミュニケーションをとるための大切な道具なのです。そして、この60名の子どもたちがはっきりと教えてくれました。「英語は難しくない。誰でも使えるステキな言葉。伝えたい気持ちと、相手を思う気持ち、愛こそがコミュニケーションの始まりなんだよ」と。

この報告書を通して、一人でも多くの子どもたち、そして大人たちにも、このことを感じていただきたいと思います。

Don't be afraid of making mistakes!

Let's try communicating in English!

平和な世界を実現するために。

最後になりましたが、子どもたち、キャンプリーダー、スタッフ関係者のみなさん、このキャンプを支えてくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。

「最高の夏！」～子どもたちのすばらしい変化～

強くなった夢の実現への気持ち

イマージョンキャンプは、ワクワク、ドキドキの未知の世界。子どもたちは、緊張しながらも、自分から未知の世界へ挑戦し、たくましく10日間を過ごす。「やってみよう」という気持ちは、キャンプだけで身につけたものではない。子どもたちが、もともと持っていた力である。それがキャンプで引き出されたのだ。

「やってみよう」が、「やってみたら、できた！」に変わった。10日後、子どもたちは、自信に満ちあふれた様子で夢を語った。



Kazuho

やしき かずほ
屋敷 一帆
(小6)

「一番楽しかった事……、一番……」っていくら考えても、一番が選べません。なぜならば、このキャンプのすべてがとっても楽しかったからです！入学式、旗作り、クラブ、トラベリング・アラウンド・ザ・ワールド、チャレンジ・ランキング、スポーツフェスティバル、ナイトパフォーマンス、そして卒業式。この10日間、毎日が、とっても、とっても楽しくて、感動的で寝るのも惜しいくらいでした。

こんなにすてきなキャンプを計画してくれた公文スタッフ、本当にありがとうございました。そして、この楽しい時間を私たちと一緒に過ごしてくれたキャンプリーダー、Thank you. Thank you very very much!!!!

このキャンプに参加するまで、正直、リーダーたちの国について何も知りませんでした。でも、今は違います。言葉も食べ物も、首都も知ることができました。そして、地球儀がほしくなりました。行ってみたいと思いました。

このキャンプを通して、世界の人々と心を通わせる一番の近道が[English]であることを学びました。もっともっと英語を勉強したいです。キャンプリーダーたちは私たちに愛情をいっぱい注いでくれました。うれしかったです。私は公文スタ

ッフ、キャンプリーダー、私たちのような愛が重なりあえば戦争などなく平和でいられると思います。

私の将来の夢は、通訳者か翻訳の仕事をしてみたいと思っています。そして、この気持ちは強くなりました。そして、ただ訳すのではなく、「心」を訳せるようになりたいです。

「Don't be afraid of making mistakes. Let's try communicating in English」.

この言葉は、イマージョンキャンプのモットーです。私のモットーにもしたいです。もうすぐピアノの発表会があります。キャンプの中でも弾いた曲「Summer」(久石譲・作)を弾きます。私にとって、最高の夏を与えてくれた公文スタッフ、キャンプリーダーたち、そしてキャンプでできた友だち全ての人におくります。とどきますように！



英語を使って伝えられる気持ち

私たちは「英語は世界の共通語」だと、言葉では知っている。ところが実際に、目の前で、母国語が違う15か国の人たちが英語を使って自由に話をしているのを見たとき、「共通語」ということの本当の価値を感じることができた。英語は、ネイティブスピーカーだけが使うものではない。だれだって英語が使えれば、この輪の中に入れる。もちろん日本人も。



Fumiki

たなか ふみき
田中 文暉
(小4)

最初の日公文国際学園行きのバスの中で、キャンプリーダーはどんな性格なんだろうか、一体どの人に当たるのだろうか、と、わくわくしたのを覚えています。バスが着いた時に、スムドゥさんが大きく手を振って出迎えてくれました。バスを降りた時から「How old are you?」とか「Where are you from?」など、いっぱい話しかけてもらえて、(あ、今英語でコミュニケーションをとっているんだな)と思い、これから会うキャンプリーダーとも早く会話をしてみたいと、思わず歩くのが速くなったくらいです。それからの十日間は、今まで感じたことがないくらい、一日が短かったです。僕が一番楽しかったことは、やっぱりスポーツフェスティバルでした。バルーンリレーでビショぬれになったことや、クッキー食い競争のクッキーがおいしかったことなど、本当に面白かったです。また、グループミーティングのときにやった「サイモンセッズ」というゲームも、前は弱かったけど、今回は勝てたことがすごくうれしかったです。

キャンプの間、英語だけで話してみ僕が

思ったのは、本当にいろんな国の人が、英語という一つの言語を使って気持ちを伝えることができるんだなあ、ということでした。そして、僕が普段習っているのはアメリカ人の先生だけど、僕が今まで知らなかった国の人たちが母国語以外にこんなに上手に英語を話せることがうらやましいと思いました。僕はいつかトンガ(*キャンプリーダーであるフナキの出身国)に行って、ホエールウォッチングをしてクジラに触りたいです。だからそのためにも、もっと英語を勉強して、もっとスラスラしゃべれるようになりたいと強く思いました。



失敗を恐れず一生懸命に伝える

キャンプにはスローガンがある。

Don't be afraid of making mistakes. 大切なのは失敗しないことではなく、失敗から学ぶこと。失敗は、夢の実現への第一歩なのだ。

そして、そのチャレンジをやさしく応援してくれる大人が、いつも子どもたちのそばにいた。



Yuki

ときなが ゆう き
時永 優希
(小5)

私はEnglish Immersion Campに参加して、本当によかったと思いました。

初めて公文国際学園のカフェテリアに行った時、ここで10日間、英語で本当にやっていけるだろうかととても心配でした。でもすぐに優しい笑顔でキャンプリーダーが話しかけてきてくれて、とてもうれしかったです。そして10日間がんばってみようと思いました。

最初は緊張してなかなか話せなかったけど、失敗を恐れないで一生懸命に話し伝えようと思えば、思っていることが相手に伝わるんだと思いました。

「Don't be afraid of making mistakes. Let's try

communicating in English.」

この言葉の通りだと思いました。

キャンプリーダーと10日間すごしてみて、世界にはいろんな国があって、その国にはいろいろな文化や衣装や食べ物や踊りがあるんだと思いました。でも世界の共通語である英語を使えば、世界中の人と話ができて、仲良くなれるんだと思いました。

私は、キャンプの中で、初めてのことにいろいろチャレンジしました。その中の一つに英語で日記を書くことがあります。今までに英語で思ったことを文章にしたことがなかったので、初めはとても難しく思いました。でもキャンプリーダーに手

優希さんのお母さまより

イマージョンキャンプの入学式に参加して、キャンプリーダーが自分の国を誇りに思っていると感じました。自分と自分の国、自分の周りにいる人びとを認めて愛しているからこそ、自分と異なるものを受け入れ、愛することができるのではないかと思います。卒業式の日には抱き合っていて泣いているキャンプリーダーと子どもたちを見て、キャンプリーダーが子どもたちに対して、どれほどの愛情を注ぎ、子どもたちに向かって全力投球してくれたかを理解しました。

今、イマージョンキャンプから戻ってきて、グループ1のキャンプリーダーとメール交換しています。娘のつたない英語に優しい返事をくれるキャンプリーダーに感謝するとともに、一生懸命に英語でメールを書き、読み、世界を理解しようとしている娘にエールを送りたいと思っています。イマージョンキャンプに参加して、娘の中での英語が、プリントに向かうだけのモノクロの英語から、キャンプリーダーとコミュニケーションをとるための「色鮮やかな英語」へと確かに変わりました。

娘はこれから先英語を学び、世界を知るための素晴らしいスタートラインに立つことができたと思っています。本当にありがとうございます。



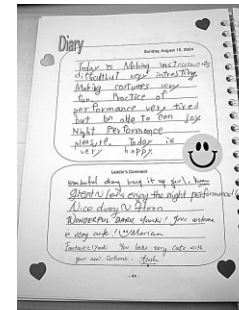
伝ってもらって書くことにチャレンジしました。

5日目ぐらいから自分で書けるようになってきました。毎日書いた日記に、キャンプリーダーがコメントを書いてシールを貼ってくれて、とてもうれしかったです。

そして日記の発表で私が発表するとき、とても緊張してドキドキしていました。でもキャンプリーダーたちが応援してくれたので、頑張れました。そして、英語で読むのが楽しくなってきました。

私はキャンプリーダーが大好きです。そしてImmersion Camp、そしてキャンプリーダーのことを忘れません。これからも英語を頑張って勉強していきたいです。

世界の人と友だちになつてたくさんを知りたいです。



保護者の方々から

卒業式での感動は今でも忘れられません。どのキャンプリーダーも、明るく、温かく愛情を注いでくださったことがよくわかりました。母国語や文化が違って気持ちちは通じる、ということを目の当たりにしました。(5年生の母)

キャンプから帰宅後、すぐにキャンプリーダーの一人に手紙を書いていました。もちろん英語で、それも何枚も……。これには、主人ともども驚きました。(4年生の母)

キャンプを通して、様々な国の人びとや文化に触れられたこと、また日本じゅうに友だちができたことは、娘にとって大きな財産になると思います。(6年生の母)

試験のために英語を勉強するのではなく、世界の人びとと心を通わせるために学びたいと、娘の意識は大きく変わったようです。(6年生の母)

キャンプを通して学んだ、英語の必要性や地球村人としての役割を、これからも持ち続けて欲しいです。そしてくやしい思いをしている子どものいない世界を作るとい、今の夢をずっと持ち続けて、かなえて欲しいです。(6年生の母)

「リーダーは家族」と、娘は言います。そしてリーダーから受けた愛を、世界のどこかで次の世代の子どもたちにバトンリレーしたい、という大きな夢を語ってくれます。(6年生の母)

公文式教室の指導者から

●いろいろな国から来たキャンプリーダーと接し、彼らの文化、考え方を知り、世界を感じることができたと思います。お互いのちがいを知り、理解しあうことが平和につながります。このような体験を重ねて、世界へ羽ばたいてください。

●Hちゃんの感想を3回読んで、3回涙しました。自分の楽しみだけでなく、世界平和にまで思いを馳せていたことに感動です。こんな子どもたちがもっともっと増えていけば、戦争をなくしていくことも可能かもしれない……。彼女が私に、自分の使命を再確認させてくれました。

●幼児の時から小学5年生まで、公文の英語を学習し続けてきた集大成とも言えるキャンプであ

り、大きな世界が広がったキャンプであったと思います。思いを胸に、夢の実現に向けて、さらなる一歩を進めてください。

●子どもたちと接するとき、否定的な言葉をいっさい使わず、ほめる事によって心の扉を開かせること。指導者として、また親として見習わなければなりません。

●一生懸命に英語で書いたダイアリー、初めは苦心したと思います。でも、あの方々は目を見張るほどの出来ばえで、「書きたいもの」を受け取ったその喜びと誇りが、英文の中からにじみでていました。

キャンプリーダーが感じた10日間

キャンプは、だれもが成長し、本来持っている素直な気持ちを引き出す事ができる、とても大切な場所。そして、その中心的な存在が、キャンプリーダーである。

キャンプリーダーは、自分自身のことや世界の中での自分の重要な役割について学ぶ子どもたちを、全力でサポートしている。そのために必要な要素は、たった1つだけ。それ

私たちは1つの大きな家族



マザー (Mazhar Hamid)
(お母さんじゃない……EICのお母さんより)
シンガポール

愛、尊敬、信頼、そして思いやり。これさえあれば、知らない人どうしても新しい兄弟、あるいは1つの大きな家族のような友だちになることができます。これほど誠実で、純粹で、正直で温かい環境を見つけられるのは、公文のイングリッシュ・イマージョンキャンプ(EIC)しかありません。

このキャンプに関わるのは4年目ですが、自分の本当の家族という時のように、親密で温かい愛情を感じられたのは、今までで初めてのことでした。この気持ちは、実際に関わってみたいとわからない事です。

この10日間は、本当に素晴らしいものでした。もっといい言葉を使うとすると“Amazing! (見事)”なものでした。

この10日間の人間関係の中で、私は自分自身や周りの人々のことについてたくさんの発見をすることができました。ホームシックにかかっている子どもに、薬は必要ありません。子どもを叱るために、叩く必要はありません。争っている人や、二人の子どもがケンカをしている時、どうやってやめさせますか？ 武器をもってやめさせる必要はありません。必要なのは、年齢や立場、その人の背景に関係なく、自分の温かさ、そして愛情を周りの人たちに見せ、分け合うことです。

このキャンプでは、シンプルな英語でのコミュニケーションを通じて、異文化、尊敬、協力、チームワーク、想像力、リーダーシップなど、様々なことを理解することができます。もっとも大切なのは、その受けた愛情を、調和のとれた、平和でもっと意味のある世界を作るために、さらに広げ、分け合っていくということです。

想像してみてください。15か国から集まった27人のキャンプリーダー、これまでほとんど英語を話す機会のなかった60人の子どもたち、そして公文スタッフが1つの大きな家族となって、共通の目標である“教育を通した世界平和”を達成するために一丸となる姿を。

今年のキャンプは、私にとって最後のキャンプになるかもしれません。だからこの場をお借りして、キャンプ中、休みなく働いてくださった公文スタッフの皆さんに、感謝の気持ちを伝えたいと思います。皆さんのサポートや理解がなかったら、キャンプはこれほど素晴らしいものになっていなかったでしょう。本当にありがとうございました。

そしてキャンプリーダーのみんな、この10日間一緒に働き、笑ったり、泣いたり、たくさん話したりしましたね。本当に楽しく過ごせました。

そして60人の子どもたち、あなたたちの純粹で無邪気な心が、私たちキャンプリーダーの本当の愛情を引き出してくれました。本当にありがとう。

この4年間、EICで素晴らしい経験をさせていただきました。これは私だけでなく、キャ

は“愛”だ。キャンプ期間中、子どもたちは普遍的な愛に囲まれ、全身に浴びた。それは、キャンプリーダーがすべての子どもたちへもたらした純粹な愛だ。

子どもたちのために力を尽くした、そんな2人のキャンプリーダーからのメッセージを紹介する。

ンプに関わった人全員がそうだと思います。
最後にEICの2つの曲を皆さんに……。
‘Everybody loves Kumon camp! Everybody loves Kumon camp!
Everybody…everybody…everybody…

everybody loves Kumon camp! ‘

‘Kumon…Kumon…We are together! We are one…Hey! Hey! Hey! ….We are Together! We are one!’

このキャンプの愛は永遠に続く



デイヴ (Debarjo Chakraborti)
インド

今年のイングリッシュ・イマージョンキャンプ(EIC)のリーダーになった時、このキャンプがこれほど大きな意味をもつものだとはいえ考えもつきませんでした。暑い横浜の大船で、日本の子どもたちと楽しく触れ合う機会だと思っていました。しかし今、私は、EICはただのキャンプではなかったと心の底から感じながら、この文章を書いています。このキャンプのメンバーは、団結した家族です。信頼関係や友情、そして本当の愛で結ばれているのです。キャンプに参加した子どもたちやキャンプリーダー、公文スタッフのみんなは、夏の夜空の、華やかにそして力強く輝く星たちのように、私たちに愛のパワーを気づかせてくれました。

このキャンプは、内容の濃い様々なアクティビティを通じて、参加した全員の心をつかえました。公文スタッフとキャンプリーダー

たちは、キャンプに参加するかわいい星たちが、愛を感じられる充実したキャンプを送れるように、準備を進めてきました。日本じゅうから集まった子どもたちは輝いていました。私は子どもたちが、英語をすらすら話し、すぐに知らない人や活動、生活環境に順応している姿を見て驚きました。

すべてを包み込んだもの、それは「愛」でした。EICの中にある愛の力によって、子どもたち、キャンプリーダー、そして公文スタッフの間に永遠に続く友情が生まれたのです。最後の日のみんなの涙が、すべてを物語っていました。世界じゅうのどこにもない、このEICの独特の雰囲気と別れることを、みんなとてもさびしく感じていました。私たちはみんな1つの大きな家族、EIC Familyです。別れの時、みんなの顔はとてもつらそうでした。でも、EICは続けていかなければなりません。新しい子どもたち、キャンプリーダー、スタッフになったとしても、EICの愛は永遠にそこにあります。

平和な世界への第一歩

イマージョンキャンプのリーダーたちは、15か国から集まっており、それぞれが異なる文化を持っている。彼らは10日間の生活の中で、お互いの尊重の仕方や他の文化との向き合い方を、子どもたちに見せる。お互いを理解しあうことの大切さを実践し、子どもたちに伝えているのだ。

お互いを受け入れていくと、子どもとリーダーは、友だちや兄弟姉妹のような大切な存在になっていく。すると、大切な人の国に興味や関心を持ち、身近に感じるようになるの

あべあきひさ
阿部晃久
(小4)

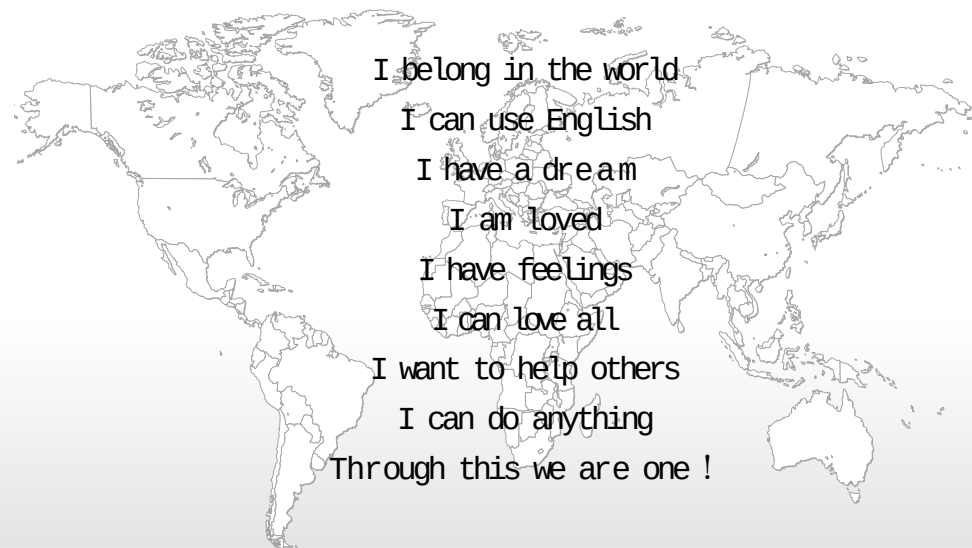


Akihisa

ぼくは世界中から集まったキャンプリーダーといっしょに、英語だけで10日間を過ごしました。キャンプリーダーはみんなやさしくて、ユーモアがあり、いつもぼくを支えてくれました。ぼくはキャンプの中で、クラブ活動でやった「DJ」がとても緊張したけれど、一番おもしろかったです。それから、いつでもどこでも、大好きなダンスをみんなといっしょにやることができ最高でした。

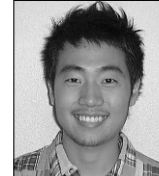
ぼくはこのキャンプで、「やればできるんだ!!」という喜びや自信を得ました。ぼくは世界中の人たちと友達になり、けんかや戦争などが無い平和で安全で、楽しい世界になればいいなと思います。だからぼくは世界共通語である英語をもっと勉強して、その手助けができるようにがんばりたいです。

ぼくは、このキャンプが平和な世界への第一歩になったと思います。



は、とても自然なことだろう。

世界は、いろいろな国や文化が集まって成り立っている。私たちにできることは、世界中の一人ひとりの違いを尊重すること、相手の立場を理解すること、そして受け入れて共存すること。世界は一つなのだ。ここでは、そのことを実感した子どもとキャンプリーダーの感想文を紹介する。



フーン (Se Hoon Heo)
韓国

キャンプが終わった、という事がいまだに信じられません。子どもたちが走り、そして笑っている姿のない公文国際学園が想像できません。

私はこの10日間のキャンプで、たくさんのことを学ばせていただきました。このキャンプが「本当の友情」「本当の愛」の意味を教えてくださいました。

確実に言えるのは、このキャンプは英語を学ぼうとする子どもたちだけのものではなく、10日間子どもたちと一緒に成長することができた、キャンプリーダーたちのものでもあったということです。

私は、すでにこのキャンプを経験しているリーダーから、キャンプの大変さについて聞いていたので、キャンプが始まるまで、とても神経質になっていました。しかし私は、で

きる限り自分らしく自然体であるよう努めました。

この10日間という短い時間で、公文国際学園にいたみんなが一体となり、本当の仲間となりました。この想像できないほど素晴らしい雰囲気が実現できたのは、私たちみんなが「英語」を使ってコミュニケーションすることができたからです。

卒業式に校長がおっしゃったように、このような友愛関係、相互理解が全世界に広がれば、戦争のない世界も夢ではありません。このキャンプは、私に世界平和への道を教えてくれました。このような機会を与えてくださった公文の皆さん、そして子どもたちに感謝します。

ありがとうございました。

I love you all.



スタッフが見て、感じたイマージョンキャンプ

事故やトラブルのない円滑な運営を目指し、いろいろな役割を担って10日間のキャンプを支えるスタッフたち。子どもたちやキャンプリーダーとは違う立場から、キャンプはどのように見えたのだろうか？

子どもが見せてくれた「力」

YUKI

(高田勇記／2004年公文スタッフ)



スタッフとして初めての参加となったイングリッシュ・イマージョンキャンプは、やはり想像以上のものでした。期間を通して目の当たりにしたのは、①子どもたちの持つ(英語)力、②子どもたちをはじめ、たくさんの人をひきつけるキャンプリーダーの人間性、③すべてを支える公文スタッフ一人ひとりの心、そして、④キャンプの場にいた全員が感じた世界平和への可能性でした。

子どもたちがキャンプリーダーとのコミュニケーションで見たリスニング力や、日記を書く時の表現力、ライティングスキルの高さには、驚かされました。そして、このキャンプは、参加するまでの毎日の積み重ねが発揮される「アウトブツの場」であるという事を、もっとも強く感じました。

参加者の多くは公文式学習者でしたが、日頃触れているあの小さなプリントとCDが、言葉や文化の違いを越えていく力や自信、積極性につ

ながっている、ということを思うと、子どもたちの持つ力と、彼らにこれまで関わってこられた方がたの大きさみたいなものを、感じずにはいられません。

そして、子どもたちが持つ力を十分に発揮させることができるキャンプリーダーたちの人間的な魅力や愛情、さらには子どもたちやリーダーを支えるスタッフの真剣さ・思いやりは、まさに一人ひとりの子どもや人を大切にするというKUMONの価値観そのもの！すべての人が頭に描く、社会はこうなって欲しいという縮図が、この10日間、横浜の地に存在していたのだと思います。

これほどまでのあふれんばかりの愛情の中で、自分の力や自信に気づいた子どもたちこそは、将来、目の前や、あるいは遠く離れた国で助けを待つすべて人びとに、同じ愛情を注いであげられる大人になると信じます。

そして、そういう可能性を持つ子どもたちで、世の中をいっぱいにするところこそ、私たち大人が今できる「よりよい世界創り」ではないでしょうか。キャンプリーダー、スタッフ、サポートしてくださった皆さん、そして60名のLovely Boys & Girls、本当に本当に、すてきな夏をありがとう！！

見学者からのメッセージ

子どもたちの口から、自然な英語がもれていたのでよく観察すると、リーダーたちはひっきりなしに、子どもたちに英語で説明し、激励し、ほめているのです。笑顔で。リーダーたちの工夫が、子どもたちの笑顔や自然な英語を引き出しているのでしょう。

もう一つ印象的だったのは、リーダーたちが子どもたちに向ける、圧倒的なエネルギーと情熱です。もしかすると、子どもたち自身が、エネルギーと情熱をリーダーから引き出しているのかもしれないと感じました。

イマージョン・プログラムの持つ、大きな可能性を感じました。

大滝和之(公文国際学園英語科 教諭)

百聞は一見にしかずとは、このことですね。実際に見学させていただき、個性のあるリーダーが子どもたちのために、軸をそろえて元気に対応している姿に、英語という枠を超えた、教育の本質を感じました。もう、キャンプ自体が、英語を道具と感じさせないレベルにまで、コミュニケーション・自己表現の「場」になっていることに驚きました。

早速、このキャンプの価値を、伝えていきたいと思います。

田中三教(日本公文教育研究会 横浜事務局長)

ちよっとひといき

イングリッシュ・イマージョンキャンプ(EIC)



第1位 EIC、ニュースになる!!

4日目、テレビ神奈川が取材にやってきました。この日は、自分たちの知らない世界や文化を知って、その違いや価値観を認め合おうというテーマのもと、キャンプリーダーが自分たちの国の紹介をする「Traveling around the world」が行われていました。

なんと、インタビューを受けることになり、みんなを代表して、グループ6のMarinaとキャンプリーダーのTingliが、カメラの前に立ってくれました。EICが好きな理由を、Marinaは「たくさんの方のキャンプリーダーや友だちがいるから!」と、しっかり英語で答えました。

このニュースは、その日のうちに3回放送されて大きな反響を呼びました。キャンプ9日目のパーティーでも全員で視聴し、大盛況でした。



第3位 Super Star誕生!?

6日目、ニュース&カメラクラブから新たに「スーパースター・Yuma」が誕生しました。グループ8のメンバーである彼のプロフィールは謎ですが、朝のシャワーで1日をスタートさせ、お気に入りのサングラスでキメると、お風呂で歌い、食堂のスタッフの横で歌い、とにかく歌い続けます。夕食後、この様子がビデオで放映されると、カフェテリアは黄色い歓声に包まれました。Yuma、いつまでもみんなのスーパースターで!



第4位 突然の…Happy Birthday!!

2日目の夜。全員ミーティングの真っ最中、突然ライトが消えて真っ暗に! そこへロウソクを立てたケーキを持って、キャンプリーダーのVaughanが登場。

そう、8月9日は、Sachika(グループ7)の10回目の誕生日。突然のできごとで驚くSachikaを囲み、「Happy Birthday」の大合唱がわき起こりました。ロウソクの火を吹き消した後も歌は止むことなく、心から彼女の誕生日を祝福したいというみんなの気持ちがあふれ、キャンプ2日目にして早くも、全員が一つの家族になろうとしているようでした。

Sachikaは嬉しさと感謝の気持ちを、一生懸命英語で伝えてくれました。日本じゅう、世界じゅうから集まった、たくさんの友だちから祝ってもらった誕生日は、忘れられない日になったことでしょう。



第5位 副校長クリスの挑戦



3日目の朝、副校長クリスの明らかな変化に、だれもが気づきました。なんと彼は、頭を剃ってスキンヘッドにしていたのです! その理由とは?

この日はクラブ活動。顔や腕にペイントを施すアートクラブのために、自らの頭をキャンバスとして提供しようという、素晴らしい心意気だったのです。予想通り、子どもたちには大好評で、みんなが競って彼の頭にペイントしました。そのあとで、ひそかに鏡を見ながら自分の頭にウツトリしている副校長の姿を、数人が目撃しています。冒頭3ページの写真は、目撃者の一人からの寄せられたものです。確かに、満足そう……。

成功要因と考察

1. 成功要因

子どもたちの感想文、アンケートの結果などから、イングリッシュ・イマージョンキャンプ(以下、EIC)の目的(5ページ参照)は、十分に達成されたと考えられる。今年度の特長は、英語でのコミュニケーションの成功体験や夢の広がり留まらず、世界平和にまで言及する感想が多く見られたことである。

その成功要因は大きく分けて、以下の2点と考える。

①子どもたちが持っていた力

- ・日頃の学習を通じてしっかりと身につけていた「英語力」
- ・未知のことや英語でのコミュニケーションに「挑戦する力」、「意欲」

②子どもたちの力を存分に発揮させることができた環境

- ・キャンプリーダー(以下、CL)の、子どもたち一人ひとりに対する心からの「愛」
- ・子どもたち一人ひとりを尊重し、安心感、自信と達成感を与えることのできる「スキル」
- ・各時期のテーマに基づき、明確な目標を持って計画、配列された「プログラム」
- ・キャンプに関わったスタッフ全員で「価値観(何のためのEICか)を共有」していたこと

2. 考 察

①子どもたちが持っていた力」について

<応募条件・実力>

「自分の意思で参加を希望していること」をいちばん大切に考えた。次に「意欲的に英語を学習していること」を重視し、「英検4級程度」「公文式英語学習者の場合、HⅡ(中2程度)終了」を目安として提示した。これは、10日間の生活においてぶつかるであろう様々な壁も、自分の力で乗り越えて欲しいと考えるからである。

結果的に、英検4級以上保有者は全体の61%(5級以上:93%)。また、参加者60名のうち55名が公文式英語の学習者であり、HⅡ教材(中2程度)終了以上の者は71%であった。目安より若干低目の参加者もいたが、「それでも挑戦したい」という意欲の表れと見ることができる。

<過去最高! 子どもたちの変化>

「最初は緊張と不安でいっぱいだった」と話す子どもたちも、入学式直後のアクティビティーから、驚くほど積極的に英語でのコミュニケーションを楽しみはじめ、あちこちから笑い声が聞こえ、CLとじゃれあう姿が見られた。そして夕方、英語で日記を書いた。ほとんどの子どもにとって初めての経験だと思われるが、まちがいを恐れず、自分の気持ちをどんどん書いてい

く姿は圧巻であった。全体での日記発表では「ほくに読ませて!」「私に読ませて!」という猛烈なアピールが始まった。同じ状況になったのが、2001年は9日目、2002年は3日目だった。それが昨年、今年は初日から。子どもたちのあまりの勢いに驚き、その場にいたスタッフは言葉を失ってしまった。子どもたちはCLだけでなく、子どもどうしや日本人スタッフとも自然に英語で話すようになり、4日目には、ほぼ全員が自分からステージに上がって自己表現するなど、昨年の卒業式と同じくらい積極的にキャンプを楽しめるようになっていた。

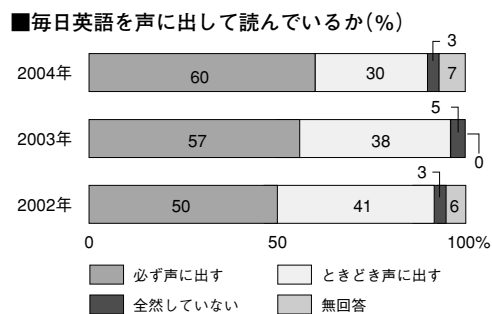
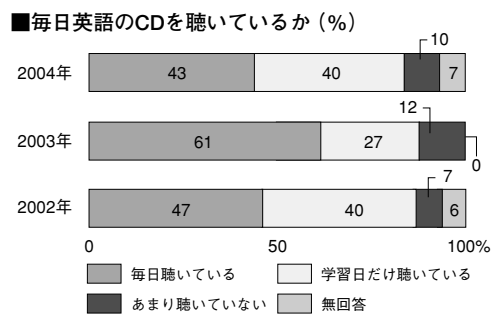
また、キャンプ後半には、日本の子ども同士が英語で話し合いをしたり、英語でケンカをするシーンも見られたが、これも4年目にして初めてのことだった。

<日ごろの学習の成果>

過去4年間の中で、今年度の参加者が最も積極的に英語を使い、楽しむことができた。特に「リスニング力の高さ」については、4年連続で参加しているCLからも「信じられない!」と驚きの声があがったほどであった。しかし、どんなに特別な環境を作っても、突然英語が使えるようになどなるはずもない。日々の学習で培った「英語力」、そして、まだ学校で習っていない英語という未知の学習に自分から取り組む中で、「挑戦する力」「意欲」を身につけていたからである。

また、参加者の多くが公文の英語学習者および経験

参加者の、日頃の学習状況の変化



者であったことから、2002年4月に公文式の英語教材が大きく改訂され、学習スタイルが変わったこととの関係が深いと考えられる。2004年度、英語のCDを「毎日聴いている」という割合の低下が気にはなるが、コミュニケーションの場面を想定した題材を使い、プリント学習(読み書き)とともに、英語を聴き、声に出して読む、というトレーニングを毎日積み重ねてきたことが、この成果に結びついたものと考ええる。

②「子どもたちの力を存分に発揮させることのできた環境」について

<CLたちの愛とスキル>

「Good Job! Excellent! Super! ……」と、子どもたちが何かするたびに、明るいまめ言葉が飛び交った。一人ひとりの子どもを、ほかの誰かと比較することなく丸ごと受け入れるCLの「心からの愛」。そして、一人ひとりを注意深く観察し、小さな成長や変化をタイミングよくしっかりと認めて、ほめる。子どもたちの自信や達成感を大きくふくらませることのできる「スキル」がCLにあったからこそ、子どもたちは「Don't be afraid of making mistakes!」「Let's try communicating in English!」のスローガンを自分のものとし、英語だけでなく、どんなことにでも、まちがいを恐れずに積極的に挑戦することができたのだ。

<EICの根底にある価値観 THE KUMON WAY>

私たちはこれまでの経験から、子どもたちに直接関わるCLこそがキャンプの成否を分ける重要な要因であると考え、その採用と育成にもっとも時間とエネルギーを費やした。CLの要件としては、英語が堪能であることはもちろんだが、それ以上に、このキャンプの趣旨に共感し、子どもたちへ心からの愛情を注ぐことができる人かどうか、を大切に考えた。採用・研修に関しては、18ページ以降の「概要」をご参照いただきたい。EICの創設期から一緒にキャンプを作り上げてきた4年目のCLが8名。試行錯誤の歴史の中で研修内容は確実に進化し、CLのスキルも確実にアップしてきた。一方、今年初参加のCLが9名いたが、研修や本番での活動を通し、経験者CLから「EICで一番大切にすることは何か。それは子どもたち一人ひとりである」という価値観(THE KUMON WAY)が、遺伝子のように引き継がれていった。

また、CLだけでなく、このキャンプに携ったスタッフメンバー全員が、同じ価値観で結ばれていたということの特筆しておきたい。10日間のキャンプは子どもだけでなく、大人たちにとっても大きな挑戦だったが、迷ったとき、何か問題が起きたときも、みんなが「何のため、だれのためのEICか」という原点に立ち返って考えることができた。子どもたちが、お互いの違いを認め、尊重しながら受け入れていくことができ、「みんながEICの仲間のようになれば、平和な世界は実現できる」と感じてくれたのも、目の前の大人たちがそれを実践していたからではないだろうか。

<プログラム>

プログラムの策定においては、一つひとつのテーマに沿った目標を設定し、もっとも効果的と思われる配列を施すとともに、過去3年間の経験を生かして、メンタルケアの視点も重視した。特に、子どもたちがEICという特別な環境に少しでも早く慣れ、キャンプに集中できるようにするために、英語の世界に入る直前の日本語オリエンテーションを充実させた。生活面のルール説明、同室の子どもとのコミュニケーションの時間を十分に確保することで安心感を持たせ、また応募の段階で子どもたち自身が書いた「キャンプへの意気込み」や「夢」を読みかえすことによってモチベーションを高め、キャンプに臨んだことの効果は大きかった。

すべては「子どもたちのために」。この一点に向けて整えられた環境の中で、子どもたちは持てる力を存分に発揮することができたのである。

3. 提 言

<だれだってやればできる>

最後に、今回の参加者は「抽選」で選ばれた子どもたちであり、英語の学習歴、進捗等による操作はいっさいないことを改めて記しておきたい。けっして特別に選ばれた子どもたちではないのである。同程度の實力を持つ子どもたちであれば、だれにだって同じように英語でのコミュニケーションを楽しみ、世界に思いを馳せることができる。「英語が使える日本人」は確実に育っているのだと、私たちに大きな勇気、希望を与えてくれた。

現在、小学生の英検4級というと、かなり優秀な子どもと映るかもしれない。しかし、日々コツコツと学習を続けることで、このレベルの實力をつけることは十分に可能である。KUMONでは、もちろん個人差はあるが、小4の平均的な学力の子どもであれば2年程度、小2でも3年程度の学習でこのレベルに達すると考えている。また、2003年度の小学生以下の英検合格者も、84,285名に達している。将来的には、小学校での英語学習も視野に入れ、このレベルを目指すべきだと考える。

アンケート結果 (5段階評価 60名全員回答)

	そう 全く 思わ ない	思 あ ま り な い	ふ つ う	そ う 思 う	そ う す ぐ ろ う	平 均 点
EICは楽しかったですか?	0	0	0	5	55	4.9
英語でコミュニケーションできたと感じましたか?	0	0	3	15	42	4.7
何でもやればできると自信がつきましたか?	0	3	6	18	33	4.4
世界のいろんな国の人と知り合うことができましたか?	0	0	2	12	46	4.7
もっと英語をがんばろうと思いましたか?	0	1	2	11	46	4.7
新しい目標を持つことができましたか?	2	0	5	11	42	4.5

概要

1. 概要

実施要領

対 象：小学4～6年生。日頃から英語を意欲的に学習している健康な男女。

起床から就寝まで、基本的な自分の身の回りのことがひとりで行える方。

英検4級程度または公文式英語教材学習者の場合、HⅡ教材(中2程度)終了程度の英語力を持っている方

人 数：60名

日 程：2004年8月8日(日)～8月17日(火)10日間

場 所：公文国際学園(神奈川県横浜市)

費 用：135,000円(現地までの交通費を除く)

スタッフ：KUMON社員16名、大学生1名、看護師1名、カメラマン2名

キャンプリーダー：立命館アジア太平洋大学(APU)他留学生26名(14カ国)、社会人1名(1カ国)

企 画：日本公文教育研究会

企画協力：立命館アジア太平洋大学(以下、APU)、公文国際学園、船橋洋一氏(朝日新聞コラムニスト)、平松守彦氏(前大分県知事)、坂本和一氏(立命館大学副総長)、吉田研作氏(上智大学教授)、木下玲子氏(国際ジャーナリスト)(順不同・敬称略)

2. 参加者の募集

募集方法

5/29(土)朝日小学生新聞、5/28(金)・6/5(土)毎日小学生新聞に広告掲載。同時に、インターネット上の公文教育研究会ホームページで告知した。また、公文式学習者には、4月下旬より、全国の公文式教室を通じてパンフレットを配布、および会員誌「ケイパブル」「IリーグNEWS」への広告掲載を行った。

応募状況、抽選

パンフレットの一部分となっているエントリーハガキ(氏名、住所、生年月日、性別、学年、電話番号を記載)で応募を受けつけ、締切日6/21(月)までに、336名の応募があった。

厳正なる抽選により60名を決定した。(内訳：4年生16名、5年生25名、6年生19名。男28名、女32名)。

3. キャンプリーダー

キャンプリーダーの募集

5/12(水)～15(土)、APUの留学生を対象に、キャンプリーダーを募集した。

募集人数8名に対し、60名の応募があった。すべて英語で行った選考の手順は、①エントリーシートの提出(応募段階)、②説明会の実施、③面接(集団面接)である。

説明会では、最初に「公文の理念」「THE KUMON WAY」「English Immersion Campの目的」等について、ビデオを用いて説明。そのうえで、キャンプリーダーに求められる条件や基本姿勢について説明し、キャンプリーダーの経験者がスピーチを行った。

面接はKUMONのスタッフ5名が担当し、その中では「10歳の子どもへの対応」を見るためのロールプレイも実施した。採用に際してもっとも重要視した点は、「公文の考え方に共感できること」と「子どもの視点に立って、子どもをサポートできること」である。結果的に9名を新規に採用した。

キャンプリーダーの研修・合宿

キャンプのスムーズな運営、またキャンプリーダー間や、キャンプリーダーとKUMONスタッフとの信頼関係を構築するために、最も力を入れたのはキャンプリーダーの事前研修である。トータル5回におよぶ研修では、キャンプの目的共有、子どもたちのメンタルケアや指導基本の確認、プログラムの演習、意見交換、新キャンプリーダーと経験あるキャンプリーダーとの交流等を行った。

また、昨年からの試みとして、キャンプリーダーのうち6名をプランニングメンバーとして位置付け、スタッフのプランニングメンバーと一緒に、10日間のプログラム案を検討・決定した。

研修では、「英語」でのコミュニケーションをいかに促すかや、子どもたちに明るく接し、安心感、信頼感を高めること、そして認めて、ほめて「自信」を持たせることの重要性、子どもたちが能力を発揮しやすいプログラムとは、などについて活発な意見交換がなされた。これにより、「子どもたちのために」を最優先する価値観を共有していった。

特筆すべきは、キャンプの回を重ねるごとに磨かれていくキャンプリーダーたちのスキルである。7月の研修で行われた大分イングリッシュ・イマージョンデイでは、4時間という短時間にもかかわらず、子どもたちをリラックスさせ、英語を引き出した彼らの見事なスキルが印象に残った。

4. キャンプの内容

スローガン・基本指導行動

Don't be afraid of making mistakes.

Let's try communicating in English.

まちがいを恐れない、恥ずかしがらないで、英語でのコミュニケーションに挑戦しよう！

全体プログラム

テーマ	DAY	AM	PM
お互いを 知ろう	1		日本語オリエンテーション 入学式 アイスブレーキング
	2	学内探検ツアー	グループ旗作成
お互いの違い を理解しよう	3	クラブ活動①②	パソコン体験・(夜)BBQ
	4	世界の国めぐり①	世界の国めぐり②
世界の中の 自分を感じる	5	遠足(横浜こども自然公園) 野外炊飯	
	6	クラブ活動③④	映画タイム チャレンジ・ランニング
自分を表現し、 夢へ向かう	7	スポーツ・フェスティバル	Tシャツ作り
	8	キャンプファイヤーの衣装・楽器作り	パフォーマンスの練習 (夜)キャンプファイヤー
私たちは ひとつ	9	発表会準備	発表会 (夜)パーティー
	10	卒業式	

★すべてのプログラムは、「テーマ」に沿って企画した。
★日本語オリエンテーション：入学式前のオリエンテーションは、大切なこと(心がまえ、安全面、生活のルールなど)を確実に伝えるため、日本語で行った。
★参加者が自分から、英語を使って発表をする場面をできるだけ多く設定した。
★クラブ活動：キャンプリーダーが主体となって8つのクラブ(①音楽、②ダンス、③スポーツ、④料理、⑤アート&クラフト、⑥読書&手品、⑦ニュース&カメラ、⑧ファッション)を企画・運営。子どもたちが自分でクラブを選びエントリーした。
★スポーツ・フェスティバルやチャレンジ・ランニング(子どもたちが複数のゲームをする企画)など、体を動かし、ストレス発散をはかれるものを設定した。

一日の流れ

時 間	項 目
7:00～	起床
7:30～	Morning Exercise
8:00～	朝食
8:45～	学習タイム※1
10:00～	アクティビティー①
12:15～	昼食
13:10～	お昼寝
14:15～	アクティビティー②
16:30～	グループ・ミーティング※2
18:00～	夕食
18:30～	全体ミーティング※3
19:20～	入浴、洗濯、自由時間 キャンプリーダー&スタッフミーティング※4
21:30	就寝

※1：学習タイム
学習習慣を保つために、毎朝1時間の学習タイムを設定し、各自持参した課題を学習した。

【第1回 プランニングミーティング①】

日 時：5/15(土)

場 所：APU(大分県別府市)

対 象：キャンプリーダー6名(プランニング)

目 的：①参加後の子どもたちのイメージ共有
②キャンプの「一日の流れ」枠組み作り
③10日間のテーマと、大まかな流れ作り
④キャンプリーダー研修要素の洗い出し

【第2回 プランニングミーティング②】

日 時：6/4(金)

場 所：つるみ荘(大分県別府市)

対 象：キャンプリーダー6名(プランニング)

目 的：①「一日の流れ」と「アクティビティー・マニュアル」の内容確定
②キャンプリーダー研修のアウトプットイメージ共有

【第3回 教室見学&全員合宿①】

日 時：6/11(金)～13日(日)

場 所：1日目公文式別府緑丘教室

2～3日目つるみ荘

対 象：キャンプリーダー全27名

目 的：①公文式教室見学による公文式理解
②全員での目的・価値観の共有
③キャンプリーダーの役割確認
④10日間の流れのイメージ作り

【第4回 全員合宿②&大分イングリッシュ・イマージョンデイ】

日 時：7/3(土)～4(日)

場 所：1日目つるみ荘

2日目APU

対 象：キャンプリーダー全27名

目 的：①全員での目的、価値観共有
②10日間スケジュール詳細確定
③子どもたちへの対応ロールプレイング
④大分イングリッシュ・イマージョンデイ※
※60名の子どもたちに実際に接し、指導・運営のイメージを固めるために、1日プログラムを開催。募集要項の基準を満たす大分県内の公文式学習者を募集し59名が参加した。

【第5回 キャンプ・プレ合宿】

日 時：8/5(木)～6(金)

場 所：公文国際学園

対 象：キャンプリーダー全27名

目 的：①会場の下見、セットアップ
②「10日間プログラムマニュアル」確認
③子どもたちの状態イメージ共有
④千葉果弘氏(国際基督教大学COE客員教授)による講演でEICの意義を再確認
⑤意欲的にキャンプを迎えられるよう、心と頭を準備

※2: グループ・ミーティング

グループごとに、自分たちが撮ったデジカメ写真からその日のベストショットを1枚を選んだ。
また、子どもたちは英語で日記を書き、キャンプリーダーがコメントを記入。

※3: 全体ミーティング

各グループ1名の日記の発表。また、グループやクラブから歌やダンスの発表があった。翌日のプログラム、準備物の確認をして終了。

※4: キャンプリーダーとスタッフミーティング

毎晩、キャンプリーダーとスタッフによる全体ミーティングを実施した。「Openly & Honestly」を合い言葉に、リーダー、スタッフを問わず、子どもの様子や、運営上の問題点についての意見・改善提案が行われた。
ミーティングは、キャンプリーダーたちのストレスが増大した時にも、問題解決の場となった。リーダーとスタッフは、目の前の問題について一緒に考え、できるだけ迅速な対応を心がけた。キャンプリーダーは思っていることを遠慮なくストレートにぶつけ、彼らのこの姿勢に、スタッフも多くの刺激を受けた。「私たちは子どもたちのためにここにいる。だから多少の困難は乗り越えられる」という共通の思いが、全員の気持ちを前に向かせていた。
キャンプリーダーとスタッフが信頼し合い、一丸となって対応するために、非常に有効であった。

5. 英語を出しやすくするためのしかけ

グループ制

子ども7~8人(男女、学年混合)とキャンプリーダー3~4人で計10~12名の8グループを編成。英語でのコミュニケーションを促進し、お互いを深く知り合うためにも、メンバーを固定するグループ制が有効であると考えた。子どもたちは、自分のグループのリーダーが明確であることで安心感を持ち、仲間意識も育った。

クラブ以外のプログラムは、このグループ単位で活動した。また、拠点となるグループルームを設置した。

60名という規模は、キャンプリーダーがグループの子どもだけでなく、他グループの子どもも含め全体的な様子を把握できる規模であったため、お互いの情報共有も促進された。

パスポート

初日、子どもたちに、すべて英語で書かれたパスポートを配布した。内容は、スローガン、毎日のスケジュールと準備物、Key Phrases、日記、歌詞、参加者・スタッフのリスト、メモ・住所録、緊急連絡先である。

英語での日記

子どもたちは毎日、英語で日記を書いた。「自分が書きたいことを書く」という経験は、子どもたちにとって英語を使つての大きなチャレンジとなった。キャンプリーダーは、一人ずつの日記のすべてにコメントを記入した。子どもたちは一人ずつ、自分の日記を声に出して発表。そのたびに大きな拍手とほめ言葉のシャワーが浴びせられ、大きな励みになった。英語を話すのは難しいと思っていた子どもたちも、「自分が書いた英語で、気持ちを伝えることができた」という成功体験によって自信を大きく膨らませた。

6. 情報発信

EIC ウェブサイトの活用

インターネット上のイマージョンキャンプウェブサイトには、自由に発言できる掲示板を設置した。これは、子どもたちとキャンプリーダーが、キャンプ後もコミュニケーションをとれることを狙いとしている。キャンプ後、掲示板は英語の書き込みであふれている。子どもたちがまちがいを恐れずに、リーダーや友達へ気持ちを伝えたい一心で書き込んでいる様子は、非常に感動的である。

<http://www.immersioncamp.com>

EIC Photo Newsの配信

期間中の子どもたちの様子を保護者や関係者へ伝えるため、ウェブサイト「EIC Photo News」を毎日掲示した。これは、各グループがグループ・ミーティングで選んだベストショットの1枚を、メールにまとめたものである。

受け取った保護者および関係者からは、「子どもたちの変化の様子がよくわかる」と大変好評であった。

EIC 2004 Staff



Aiko (河野愛子) **Aki** (中本晶子) **Chris** (クリス・ミュー) **Hassy** (橋口 健) **Hey** (清家陽平) **Hiro** (品川 宏) **Kagari** (上田香雅里) **Ken** (鳥居健介) **Masa** (菊田雅史) **Mr. IT** (原田勝行)



Mr. Osawa (大澤啓介) **Mr. Shiiki** (椎木義男) **Parsley** (山内孝敏) **Rika** (八鍬里香) **SK** (柴田英輔) **Sumudu** (スミドゥ・ベレイラ) **Taka** (大西貴久) **Tina** (高松美枝子) **Tonny** (谷 延尚) **Yuki** (高田勇記)



Arosha
(スリランカ)



Atika
(インド)



Audi
(リトアニア)



Bun
(カンボジア)



Chan
(韓国)



Costa
(スリランカ)



Dave
(インド)



Elle
(サモア)



Eugene
(ケニア)



Funaki
(トンガ)



Hoon
(韓国)



Huong
(ハンガリー)



Justus
(ケニア)



Kae
(日本)



Kanda
(スリランカ)



Kwame
(ガーナ)



Mali
(スリランカ)



Marian
(フィリピン)



Mazhar
(シンガポール)



Nana
(ガーナ)



Oyl
(タイ)



Pat
(サモア)



Raj
(フィリピン)



Regnar
(フィリピン)



Susan
(ケニア)



Tingli
(シンガポール)



Vaughan
(オーストラリア)

Camp Leaders



Akari
(5年・山口)
英語がべらべらになりたいな



Aki
(6年・神奈川)
リーダーの国は、私にとって特別な国になった



Akihisa
(4年・岩手)
このキャンプは平和な世界への第一歩



Atsumi
(5年・青森)
英語は一生懸命話せば伝わる



Ayano
(5年・愛媛)
10日間英語で過ごして自信が持てた



Chihiro
(6年・岩手)
国連で発展途上国の子どもたちのために働きたい



Daichi
(5年・広島)
英語の話し方や使い方がけこうわかった



Daisuke
(6年・東京)
海外でも困っている人を助ける弁護士になる



Emi
(4年・神奈川)
英語をもっと勉強して獣医になりたい



Fumiki
(4年・神奈川)
トンガに行きたいから、もっと英語を勉強するぞ



Genki
(6年・京都)
みんな同じ心を持った地球人だ



Hana
(5年・岐阜)
英語で他の国の人とコミュニケーションできてうれしかった



Haruhisa
(4年・東京)
サッカー選手になって、いろんな国の選手と英語で話したい

Participants



Haruka
(4年・大阪)
日本のことを英語で世界のひとに紹介したい



Haruna
(6年・石川)
夢は国際的な獣医になること



Hayato
(5年・神奈川)
苦手だった英語をがんばれた



Hiroki
(4年・神奈川)
メジャーリーガーをめざしたい！



Hitomi
(6年・富山)
世界がとても身近に感じられるようになったよ



Kana
(5年・神奈川)
夢に近づくまでに英語がべらべらになりたい



Kanae
(6年・千葉)
英語を勉強してリーダーたちにまた会いたい



Kasumi
(6年・埼玉)
キャンプリーダーになってキャンプに参加したい



Kazuho
(6年・山梨)
「心」を訳せる通訳者や翻訳者になりたい



Kazuki
(4年・和歌山)
完璧な英語でなくてもコミュニケーションすることが大切だよ



Kei
(6年・神奈川)
国連で働きたい！



Kenji
(5年・鳥取)
マサチューセッツ工科大学で勉強するぞ！



Kimihiro
(4年・福岡)
パイロットになって外国で仕事したい



Kotaro
(4年・神奈川)
もっと英語を勉強してイギリスの友達に会いに行く！



Kurumi
(4年・長野)
キャンプに出会えて、ほんとうにほんとうによかった



Maiko
(6年・北海道)
英語を勉強する新しい目標ができた



Mako
(5年・奈良)
先生になって英語を教えたい



Marina
(5年・福岡)
キャンプリーダーや友達との思い出はずっと忘れない



Megumi
(5年・静岡)
キャンプリーダーたちの国に行ってみた！



Miki
(6年・広島)
英語を勉強して通訳になる



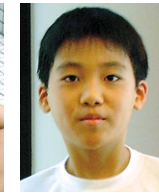
Mio
(6年・千葉)
英語がいっぱい話せるようにがんばる



Motoko
(5年・茨城)
英語で言いたいことを伝えられた



Moyu
(6年・茨城)
エジプトの考古学者になるために英語をがんばる



Naoto
(5年・愛媛)
キャンプの体験は、ぼくの一生の思い出



Natsumi
(5年・広島)
英語でリーダーたちと世間話もできたよ



Reina
(5年・大阪)
いろんな国のキャンプリーダーに、多くのことを教えてもらった



Rima
(6年・青森)
通訳になって英語が使えない人を助けた



Risa
(6年・東京)
英語でうまく言えなくても、リーダーがやさしく聞いてくれた



Ryoko
(4年・兵庫)
いっしょうけんめい伝えることが大切なんだよ



Sachika
(4年・長野)
キャンプリーダーや友だちは一生の財産



Sayako
(4年・北海道)
英語の先生になるよ



Seitaro
(5年・青森)
英語で話しかけられても、すぐ返事できるようにになった



Shigeki
(5年・愛知)
おもちゃを作る会社に入り、アメリカへ出張したい



Shogo
(4年・岡山)
もうなにもこわくない勇気を持てた



Taiki
(5年・長野)
将来はマラソン選手になって外国でがんばりたい



Takaaki
(6年・山形)
いろいろな国の文化を知ることができた



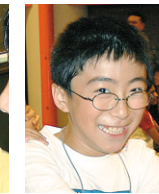
Takahiro
(4年・山梨)
キャンプのなまはずっと友だち



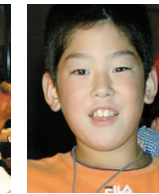
Takayuki
(6年・大阪)
英語に対する思いが変わった



Takuma
(5年・秋田)
どんな人種の人ともみんな地球人



Tomoaki
(5年・神奈川)
10日間のキャンプでかなり成長できた！



Tomoyuki
(5年・秋田)
だんだんと英語がわかるようになったよ



Yasuhiro
(6年・広島)
海外へ留学してみたい



Yui
(5年・東京)
温かい気持ちで助け合うことが大切だよ



Yuki
(5年・大分)
世界じゅうの人と友だちになりたい



Yuma
(4年・熊本)
英語を話すことがだんだん楽になったよ



Yurimi
(5年・神奈川)
なんでもチャレンジすればできるんだよ



Yuya
(5年・神奈川)
キャンプリーダーが英語を話しやすい環境を作ってくれた

